奈良時代

名前

問1　奈良時代、聖武天皇は相次ぐ反乱や疫病といった社会不安を鎮め、国家を安定させるために仏教の力を利用しようと考えました。このように、仏教の教えによって国を守ろうとする思想を何と呼びますか。（2026年 北海道公立入試 類似）

1. 鎮護国家の思想
2. 尊王攘夷の思想
3. 神仏習合の思想
4. 末法思想

問2　奈良時代の中頃に出された「墾田永年私財法」は、それまでの「公地公民」の原則を大きく変えるものでした。この法律が制定される直接的な背景となった、当時の社会状況の説明として正しいものを選んでください。（2026年 岡山県公立入試 類似）

1. 三世一身の法によって土地の私有が永久に認められた結果、有力な農民がさらに広い土地を求めたため。
2. 聖徳太子が十七条の憲法を制定したことにより、貴族が自分の土地を持つ権利が法的に保障されたため。
3. 唐から伝えられた新しい農業技術を普及させるために、農民に土地の所有権を与えて管理を任せる必要があったため
4. 人口が増加して政府が農民に与える口分田が不足し、農民の労働意欲が低下して田畑が荒廃したため。

問3　律令国家の地方行政において、都から派遣された「国司」と、地元の有力豪族が任じられた「郡司」の関係性について述べた文として、最も適切なものはどれですか。（2026年 長野県公立入試 類似）

1. 国司は軍事のみを担当し、郡司は行政と裁判の全権を握ることで地方を共同統治した。
2. 国司と郡司はどちらも中央から派遣される官吏であり、数年ごとに交代して地方を治めた。
3. 国司は九州の太宰府にのみ置かれ、それ以外の地域はすべて郡司が独立して統治した。
4. 国司は中央から派遣されて郡司を監督し、郡司は国司の下で実務や徴税の補助を行った。

問4　律令国家が全国的な「戸籍」を作成し、6歳以上の男女に土地を分け与える「班田収授の法」を施行した最大の目的は何ですか。（2022年 鳥取県公立入試 類似）

1. 仏教を広めることで、疫病や社会不安を鎮めるための台帳とするため
2. 十七条の憲法を普及させ、役人が守るべき道徳を全国に徹底するため
3. 人々の氏名や年齢を把握し、租・庸・調などの税を確実に徴収するため
4. 大陸から伝わった高度な農具を、身分に応じて平等に配布するため

問5　701年に大宝律令が制定され、律令国家としての体制が整えられた時期、さらなる国家の威信を示すために710年に藤原京から遷都された、現在の奈良県に位置する都の名称を答えなさい。（2021年 静岡県公立入試 類似）

1. 平城京
2. 恭仁京
3. 平安京
4. 藤原京

問6　遣唐使に関連する人物や出来事の説明として、正しいものはどれですか。（2017年 千葉県公立入試 類似）

1. 小野妹子は、最初の遣唐使として唐の皇帝に「日出づる処の天子」で始まる国書を届けた
2. 鑑真は、遣唐使の一員として日本の最新の仏教建築を唐に伝えるために派遣された
3. 足利義満は、勘合貿易を円滑に進めるために遣唐使の派遣を再開した
4. 阿倍仲麻呂は遣唐使として唐に渡り、科挙に合格して役人として登用されたが、日本に帰ることはできなかった

問7　唐の僧侶である鑑真が、5度もの渡航失敗や、それによる失明という苦難を乗り越えてまで日本へ来ようとした主な目的は何ですか。当時の社会背景を踏まえた説明として最も適切なものを選びなさい。（2023年 和歌山県公立入試 類似）

1. 日本の僧侶に正式な資格を授けるための「戒律」を伝え、仏教の秩序を整えるため
2. 大仏造営のための高度な建築技術や、銅を精錬する新しい技術を日本に伝えるため
3. 地方の貧しい人々を救済し、橋や堤防を築くなどの社会事業を日本で展開するため
4. 遣唐使と協力して、唐の進んだ政治制度である律令を日本に導入させるため

問8　奈良時代の743年に発令された、新しく開墾した土地を永久に自分のものにすることを認めた法律を何といいますか。（2016年 奈良県公立入試 類似）

1. 墾田永年私財法
2. 公地公民制
3. 班田収授法
4. 三世一身の法

問9　7世紀後半から8世紀にかけて、大化の改新から始まった改革の流れを受け、天皇を中心とした中央集権的な国家体制を築くために整えられた、法体系に基づく政治形態を何と言いますか。（2017年 秋田県公立入試 類似）

1. 武家政治
2. 立憲政治
3. 律令政治
4. 摂関政治

問10　日本最古の歌集である万葉集には、東国などから九州の沿岸警備のために派遣された兵士たちが詠んだ「防人の歌（さきもりのうた）」が収録されています。当時の兵士たちが歌の中で表現していた、共通する心情として最も適切なものはどれか。（2022年 京都府公立入試 類似）

1. 天皇のために命を捧げて戦うことを名誉とする、兵士としての強い決意
2. 遠い九州の地で、外国の優れた文化を学べることへの期待感
3. 都での華やかな生活を懐かしみ、貴族の文化に憧れる優雅な気持ち
4. 律令制度による重い兵役の負担の中で、故郷に残した家族を思う切実な悲しみ

問11　奈良時代の税制度において、都からの距離と人々に課せられる負担の関係について正しく述べたものはどれですか。都を中心として同心円状に地域の負担を示した資料の内容を踏まえて答えなさい。（2019年 大分県公立入試 類似）

1. 都に近い地域ほど、都から遠い地域よりも納める特産物の種類が多く指定されていた。
2. 都に近い地域ほど、特産物を都まで運ぶ往復の移動に日数がかかるため、労役が免除されていた。
3. 都に近い地域ほど、都で働く労役の日数が多く設定されていた。
4. 都に近い地域ほど、収穫した米の一定割合を納める「租」の負担が重くなっていた。

問12　奈良時代の平城京には、律令制度に基づいて地方から多くの物資が運び込まれました。当時の税制度である「租・庸・調」のうち、都での労働の代わりに布を納める「庸」や、地方の特産物を納める「調」が都に運ばれた実態について、正しい説明を選びなさい。（2025年 福岡県公立入試 類似）

1. 農民は、都まで自分たちの足で重い荷物を運ぶという大変な負担を負っていた。
2. 輸送中の盗難を防ぐため、すべての物資は海路を使って瀬戸内海経由で運ばれた。
3. これらの税はすべて、九州の防衛を担当していた防人の給与として直接送られていた。
4. 都の役人が地方へ出向き、それぞれの村で物資を回収して都へ持ち帰っていた。

問13　奈良時代の聖武天皇の時代を中心に栄えた天平文化を代表する彫刻作品で、奈良市の興福寺に安置されている、三つの顔と六本の腕を持つ仏像を何といいますか。（2026年 福島県公立入試 類似）

1. 阿弥陀如来像
2. 弥勒菩薩像
3. 阿修羅像
4. 金剛力士像

答え合わせ・解説

問1	答え 1 鎮護国家の思想	聖武天皇の時代は、天然痘の流行や藤原広嗣の乱など、社会的に不安定な状況が続いていました。これらを解決するために、仏教の教えを政治に取り入れ、国家の安泰を願う「鎮護国家」の思想が推進されました。その具体的な施策として、全国に国分寺・国分尼寺が建立されることとなりました。
問2	答え 4 人口が増加して政府が農民に与える口分田が不足し、農民の労働意欲が低下して田畑が荒廃したため。	律令国家の基本である「公地公民」のもと、農民には口分田が与えられていましたが、人口増加に伴い土地が不足しました。政府は当初、三代に限り私有を認める「三世一身の法」を出しましたが、期限が来ると土地を返す必要があるため農民の意欲が上がらず、開墾が進みませんでした。そこで、期限をなくし永久に私有を認める「墾田永年私財法」を制定することで、開墾を促進しようとしたのです。
問3	答え 4 国司は中央から派遣されて郡司を監督し、郡司は国司の下で実務や徴税の補助を行った。	律令国家の地方統治は、中央から派遣される「国司」が地元の実力者である「郡司」を指揮・監督する形で行われました。国司は中央の意向を地方に伝える役割を持ちましたが、実際の土地や人々の把握には地元の事情に明るい郡司の協力が不可欠でした。この二重の構造によって、広大な地方における徴税や行政が維持されていました。郡司は原則として世襲制であり、交代制の国司とは立場が明確に区別されていました。
問4	答え 3 人々の氏名や年齢を把握し、租・庸・調などの税を確実に徴収するため	唐の制度にならって整備された律令国家では、戸籍をもとに口分田を割り当てる一方で、人々に税や兵役の義務を課しました。稲を納める「租」のほか、都での労働や特産物を納める「庸・調」などは国家財政の重要な基盤であり、それらを正確に管理・徴収するために戸籍が不可欠でした。
問5	答え 1 平城京	唐の都である長安をモデルとして設計されたこの都は、碁盤の目のように道路が整備された条坊制が採用されました。710年に元明天皇によって遷都されてから、794年に平安京へ移るまでの約70年間、政治と文化の中心地となりました。
問6	答え 4 阿倍仲麻呂は遣唐使として唐に渡り、科挙に合格して役人として登用されたが、日本に帰ることはできなかった	阿倍仲麻呂は留学生として唐に渡り、皇帝に仕えるほど重用されましたが、帰国船の遭難などにより日本へ戻る夢は叶いませんでした。なお、小野妹子は「遣隋使」として隋へ派遣された人物です。鑑真は唐から日本へ正しい仏教の戒律を伝えるために招かれた僧侶であり、足利義満が行ったのは室町時代の「日明貿易」です。
問7	答え 1 日本の僧侶に正式な資格を授けるための「戒律」を伝え、仏教の秩序を整えるため	当時の日本では、税を逃れるために勝手に僧侶になる者が増えており、仏教の規律が乱れていました。国家として正式な僧侶を認めるための儀式（授戒）を行うには、正しい「戒律」を理解した指導者が必要だったため、鑑真は命懸けで来日を目指しました。社会事業を行ったのは行基、大仏造営は聖武天皇の政策、政治制度の導入は主に遣唐使や留学生の役割です。
問8	答え 1 墾田永年私財法	人口の増加にともなう口分田の不足を解消するため、政府は当初、723年に「三世一身の法」を出して三代に限り私有を認めましたが、期限が来ると土地が国に没収されるため、農民の開墾意欲は続きませんでした。そこで743年、開墾した土地を永年（永久）に私有することを認めるこの法律が制定されました。この制度により公地公民の原則が崩れ、貴族や寺院が広大な私有地である「荘園」を形成するきっかけとなりました。
問9	答え 3 律令政治	大化の改新によって土地と人民を国家が直接支配する「公地公民」の原則が示され、その後、中国（唐）の制度を参考に「律」と「令」という法律が整備されました。これにより、法に基づいた組織的な統治が行われるようになりました。武家政治は鎌倉時代以降、立憲政治は明治時代以降、摂関政治は平安時代の中期に見られる形態です。
問10	答え 4 律令制度による重い兵役の負担の中で、故郷に残した家族を思う切実な悲しみ	律令制度のもと、民衆には租・庸・調などの税のほか、防人のような厳しい兵役が課されていた。防人の多くは東国から徴兵され、遠い九州の地で長期間家族と離れて生活しなければならなかったため、万葉集には彼らが故郷や家族を深く思いやる素朴で切実な歌が多く残されている。
問11	答え 3 都に近い地域ほど、都で働く労役の日数が多く設定されていた。	奈良時代の律令制度では、都からの距離に応じて税や労働の負担が調整されていました。都に近い地域（畿内など）に住む人々は、都までの移動距離が短く、移動に要する日数が少なくて済むため、その分、実際に都で働く「労役（賦役）」の日数が多く課せられていました。これは、遠方の地域の人々が特産物などを都まで運ぶのに多大な日数を費やすこととのバランスを考慮した仕組みです。「租」は主に田地の面積に応じて課されるものであり、都からの距離によって収穫量の割合が変わるものではありません。
問12	答え 1 農民は、都まで自分たちの足で重い荷物を運ぶという大変な負担を負っていた。	律令国家の財政を支えた「庸」や「調」は、農民が自ら都まで運ぶ「運脚（うんきゃく）」という仕組みによって平城京に集められました。食料を持参して長い道のりを歩くこの負担は、当時の農民にとって非常に重いものでした。平城京は、全国各地の富や特産物が集まる物流の拠点としての役割も持っていました。
問13	答え 3 阿修羅像	奈良時代の天平文化では、仏教による国家の安定を願う聖武天皇の政策を背景に、多くの優れた仏像が製作されました。興福寺に伝わる阿修羅像は、粘土や漆を用いた脱活乾漆造（だっかつかんしつぞう）という技法で作られており、三面六臂（三つの顔と六本の腕）の独特な姿と、繊細な表情が特徴です。